



雪里留学を活用しスキーに力を入れる碧月くん

就学する子どもたちを増やそうと十日町市の松之山地域が取り組む国制度を活用の「学区・区域外修学受入制度」。地域特性をネーミングした「雪里留学」に神戸市から冬季だけ留学するスキー大好き小学生がいる。留学する小中一貫教育まつのやま学園5年生の恵美碧月(めぐみ・あつき)くん、11歳。兵庫県神戸市の生まれ。小学2年時に両親

小学2年の冬のある日。母・直子さんから声がかかった。「暇なら一緒にスキー場へ行ってみ

と滑り、スキーが大好きになり、小学4年から「渡り鳥」のように冬期間だけ留学している。だが、スキーを通じて松之山の良さを体感しはじめ、「夏の松之山も経験したい」と、通年滞在を意識するようになった。雪里留学がめざす雪国文化を体感し学べる環境提供による児童生徒増が、また一つ実現しそうだ。

倉又スキー場へ。碧月くんにとって初スキー。し

ツスン前に頂上へ登った。怖くて泣いて、スキーモービルでおろしてもらいました。でもレッスン

で習ったら面白くて。以降、毎週のように家族でスキーへ。

岐阜県のめいほうスキー場や新潟県妙高市・関温泉スキー場なども遠征。妙高まで車で6時間かけ雪を求め、1年後にはジュニア検定1級に合格。「もっとスキーがしたい。親が雪里留学を探してくれたんです」。長野や北海道などリサーチしたが、2023年夏、松之山・雪里留学寮の「藤

# 「雪里留学」で雪国文化を体感

まつのやま学園 神戸市からスキー大好き恵美くん

倉ハウス」を見学。「あつ、いいなって思いました。大蔵寺高原キャンプ場のサップなど、神戸にはない面白さに魅力を感じ、家族で留学を決めました」。

最初の雪里留学生活は母と共に松之山に住宅を借り、2024年1〜3

「場関係者からはスキー合宿に誘ってもらうなど毎日スキー漬けだ。雪里留学は1〜9年生までがみんな仲が良く、スキー大会に行く先輩が他校の選手を紹介してくれ、すぐに仲良くなれて本当に嬉しい」。

月まで滞在。「スキー、楽しかったですね。毎週のようにスキー場に通って、親が雪里留学を探してくれたんです」。長野や北海道などリサーチしたが、2023年夏、松之山・雪里留学寮の「藤

いるし、スタッフの皆さんが松之山の祖父母や家族のようで安心して過ごしています。週末はスキー場へ。平日はまつのやま学園に通い、帰宅後にナイターへ。スタッフが送迎し、スキ

余。「でも隣のクラスに誰がいるのか分からない。知り合いも居ない自分を優しく迎えてくれる、そんな環境がとても心地いいです」。今後は通年生活も視野に入れる。本格的にスキーに取り組みなから、夏の松之山も過ごしてみたいです」。

(相澤由加理)

週一連載

## 明日へ

あした